

銀漢亭日録



伊藤伊那男

5月31日(土)▼九時発、気仙沼へ。魚市場で買物。家へ送る。大島の和人(一砂)さん宅の農作業用プレハブを会場として恒例の親睦会が始まる。徐々に天気が崩れ始める。メンバーは我々七人の他、東京から志村昌、蛭石弾さん、仙台の信一兄、漁師の菊田志尚さん、齊藤克之さん。志尚さんの牡蠣とつぶ貝。信一さんの仙台「味の牛たん喜助」の牛舌、和人さんの鮎、蛭の刺身など嬉しい食物が次々に出る。ヴーヴ・クリコで乾杯。次第に風雨が募り、台風のような様相。十五時過、一足先に齊藤さんの車で「大鍋屋」へ送ってもらい、風呂で温まる。

6月1日(日)▼雨降り続く。「森は海の恋人植樹祭」は不参加とし、バスで仙台に出て帰宅。

2日(月)▼エッセイ一本(「斜陽館」を訪ねて)。到来のアスパラガス、気仙沼から送った蛭の刺身などを家族に供す。

3日(火)▼奈良の食物と俳句について下調べ。自句集についての検分。

4日(水)▼「関東中央病院」、消化器内科の外川先生を訪問。今後何かあったときの近くの病院への繋ぎということ、順天堂医院」からの紹介状を持って。桃子同伴。昼、杏子、華子呼んで成城駅近くの「いなせや」で昼の魚定食。夜、アスパラガス、京の漬物。

5日(木)▼快晴。九時、「岩野蘭科クリニック」で定期検診。十一時、四谷の「修琴堂大塚医院」。煎じ薬、靈芝を追加したもの。粉薬、冬虫夏草を二グラムから五グラムに強化したものなどを受ける。体

重五八キロから六〇キロへ、体温を三十六度から三十六・五度へ頑張つて欲しいと。気仙沼の漁師、菊田志尚さんに頼んでおいた牡蠣、つぶ貝到来。

6日(金)▼「銀漢」七月号の校正作業。十四時、下北沢の「星乃珈琲店」でNHK俳句の浦川聡子さんと原稿打合せ。あと甥の店に寄り、近況報告。「オオゼキ」でトマト、メロン、カステラなどを買う。数句会の選句。

7日(土)▼奈良の食物と俳句についての下調べ。午後、祖師ヶ谷大蔵の米糠酵素風呂。カツ井弁当の昼食。夜、気仙沼の牡蠣。

8日(日)▼奈良の食物と俳句の下調べ。昼、そうめん、夜、蒸牡蠣。つぶ貝の炊き込ごはん、トマトなど。

9日(月)▼九時、「東京目白クリニック」。保険適用外のヤーボイの点滴治療を受ける。イミフィンジと併用。昼、「さぼてん」のカツ井弁当を家で。夜まで寛ぐがほとんど副作用感すること無し。夜、牡蠣ごはん、トマト。

10日(火)▼副作用というほどではないが、すっきりしない一日。俳人協会「第六十四回全国俳句大会」の本選(予選通過作品百余句)に入る。

11日(水)▼六時四十五分、バスター新宿発の高速バスで伊那市へ。バス停で大野田さんの迎えを得て、「井月顕彰会」の北村監督、平沢事務局長と伊那市役所へ。白鳥市長を表敬訪問。「門・やません」にてローメーの昼食。十四時、新聞社四社に来て貰い、九月の「千両千両 井月さんまつり」の企画についての説明会。あと大野田さんに駒ヶ根の従兄の家まで送って貰う。志津子さんの漬物、おはぎ(あんこ、きなこ、ごま)、茶碗蒸など懐かしい料理を戴く。たまたま同級生の佐々木君が来て歓談。氏は幼児の頃、私の父のペニシ

リンで命を救われたという人。結局貧乏だったので医療費払わないまま今日に到ると。雨の一日。「プレモントホテル駒ヶ根」泊。

12日(木)▼窓から見る山が晴れてくる。九時過、従兄(池上善文さん)が迎えに来てくれる。安楽寺の池上家の墓、芦部家の墓。友人丸山明君の墓参り。前市長の杉本君とぼったり行き合う。丸坊主になつていて、京都の佛教大学で勉強しているという、こういふ生き方もあるか。あと私の実家跡、天竜川対岸の見晴台、火山峠などを巡り、父の生家へ。先祖の墓参り。「高遠そば ますや」で蕎麦の昼食。伊那バスターミナルで従兄と別れ、十三時二十五分の高速バスで東京へ。夜、買ってきたほうとう鍋。

13日(金)▼俳人協会「第六十四回全国俳句大会」の選(特三、並二十)を送る。午後、米糠酵素風呂。長崎から到来の枇杷うまし。

14日(土)▼北澤一伯君、東京へ来る用事あり、私の句集の表紙の絵を持参してくれると、武田禪次、高校同期の大野田さんと新宿の中村屋で落ち合う。七、八枚用意してくれる。有難いこと。十三時、駿河台下のビルにて「銀漢本部句会」。調布の俳句講話の聴講生が二人参加してくれる。あと近くで懇親会。

15日(日)▼第四句集名は『狐福』とする。前句集と同じ句の混入、類似表現などあり、一句ずつ点検作業。

16日(月)▼昼、高速バスにて富士急ハイランド。「ハイランドリゾートホテル&スパ」で高部務氏と待合せ。冷し中華の昼食。高部氏の別荘に入り、昼寝、といつても夕方まで寝てしまう。十九時、ホテルでしゃぶしゃぶの夕食。

17日(火)▼快晴。鶯、時鳥を聞きながらテラスで朝食。庭の山椒の実を摘み、処理。かなりの量。自句集の句の入れ替えなど。なかなか難しい作業に没頭。夜、ホテルの和食コース。

18日(水)▼快晴。テラスで朝食。十一時、辞去。富士山駅から高速バスで新宿へ。自句集稿を武田編集長へ送る。前句集の句の混入、類似表現。地名俳句の多さ、などなかなかの力作であった。

19日(木)▼十一時、加々美先生の整体を受ける。思い切り効いて帰宅して寝る。奈良の食物と俳句について明日の調布講話のレジメを作る。夜、「麴町区民館」にて「銀漢句会」。

20日(金)▼十四時、調布の俳句講話「奈良の食物と俳句」。あと、喫茶店で歓談。メロンパフェ。

21日(土)▼「俳句でふてふ」の原稿八編、今井竜氏へ投函。「伊東温泉つつじ祭り全国俳句大会」の講演のレジメを高橋氏へ送る。

22日(日)▼編集部の方々が小生の句集稿を点検し、さまさまの意見や疑問を寄せてくれる。しみじみ感謝。点検の一日。

23日(月)▼九時、「東京目白クリニック」。今日はGCDの中のイミフィンジ、ゲシユタビンの点滴。ゲシユタビンは順天堂では効かない判定が出ているが、打ってみようと。点滴中に眠ってしまう。そのあと眠くて眠くて、ようやく家に辿り着いて夜まで寝る。夕食は何とか食べてまたまた眠る。

24日(火)▼昨日より回復しているが、まだ気怠さと眠気が醒めず。何も手付かず。午後までぐずぐずと過す。四句会の選句、やつとこなす。

25日(水)▼だいぶ気分回復。終日、「銀漢」8月号の選句。夜、月下美人の開花を初めて見る。二輪。

26日(木)▼終日、「銀漢」8月号の選句。各担当者へ投函。

27日(金)▼映画「国宝」鑑賞。十七時、青山の「スタインウェイ&サンズ東京」にて、NY在住の月野ぼなさんの夫君、木川貴幸さんのピアノコンサートへぼなさんと一年振りに会う。